

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業 経常事務事業 建設事務事業

第5次行政改革大綱第1次アクションプランとの関連  
 有 地域における自主活動を支援し、市民自治力を高めるとともに、公共サービスについても多様な主体との連携、協働による役割分担を進める、協働推進基本計画を策定する  
 無

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	協働推進計画推進事業(主要事業)								
1-2 担当	部	市民部	課又は施設	市民協働課	係	市民活動推進係	評価票作成者 市民活動振興担当係長 伊藤孝士		
1-3 総合計画における施策の体系	節	交流と市民参加			基本施策	市民参加・市民活動支援		コード	5 1 2
		「市民と行政が尊重しあう協働のまちづくり」			単位施策(中)	市民協働の体系づくり		コード	5 1 2 2
	項	参加と協働			単位施策(小)	基本計画の策定 計画の推進		コード	5 1 2 2 1
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	地域の課題を解決するために主体的に行動する潜在的力を持つ市民及び全豊明市職員		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)		公共的領域を行政だけではなく、地域を構成する多様な主体が、それぞれの得意分野や特徴を生かしながら各々の責任や役割を果たしつつ、共にまちづくりを担うという自治意識を向上させるとともに、総合的に策定された計画を全庁的に実施・推進する。			
1-5 事務事業の内容	第4次総合計画の基本理念である「協働で創るしあわせ社会」の実現ために、平成19年度に策定された協働推進計画を協働推進委員会の助言を受けながら進行管理していく。								

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	他市の協働に関する指針・計画を参考にしながら、本市の計画策定事業のあり方について課内で意思統一を図った。	行政が担えないサービス提供者としてのNPO等の台頭が目立っており、市民と行政が協働してまちづくりを推進するための環境整備することは急務である。	公平平等を旨とする行政サービスだけでは充足できない分野において、よりきめこまかなサービスの提供が望まれており、多様な主体が公的サービスを提供するための環境整備が求められている。		
平成19年度	協働推進委員会を設置し、9回にわたる委員会での議論を経て協働推進計画を策定した。支援計画及び協働モデル事業選定においては各課と調整を行いながらまとめた。	"	"			
平成20年度	協働推進計画の進捗状況調査を実施するとともに、担当者が情報交換を行うための懇談会を開催した。	"	"			
平成21年度	協働推進計画の進捗状況調査を実施するとともに、担当者が情報交換を行うための懇談会を開催、今年度はNPOの事例発表を加え、行政とNPOとのネットワーク作りに努めた。	"	"			
平成22年度						
平成23年度						
平成24年度						
平成25年度						
平成26年度						
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	市民協働事業の実施件数(件)		35(件)	45(件)	当該年度中の市民活動団体(NPO法人・任意団体)への事業委託件数

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)	活動実績 a(単位)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		直接事業費 b(千円)	0	5,697	353	165					
人件費 c(千円)	1,024	3,840	192	192							
合計コスト d(b+c)(千円)	1,024	9,537	545	357							
単位コスト d/a(千円)	計画1回当たり 1,024	1計画当たり 9,537	1回当たり 68.1	1回当たり 59.5	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり	

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 協働推進計画の策定(平成19年度) 直接事業費 策定業務委託料4,999千円+協働推進委員会報酬(9回分)698千円 人件費 計画策定職員事務費3,200円×8H×150日=3,840千円  
 計画の進行管理(平成20年度以降) 直接事業費 協働推進委員会報酬(委員会+懇談会) 人件費 3,200円×4H×15日=192千円

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2 - 4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(件)	34	37	38	37						
	後期目標値に対する達成度(%)	75.6	82.2	84.4	82.2						

### 3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果(アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価		A	A	A	A						

- 4 段階評価結果
- |                                |       |                                |
|--------------------------------|-------|--------------------------------|
| A : 上位目的である施策に貢献しているため継続する     | 判断の基準 | 必要性(必要な事務事業であるか)               |
| B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要 |       | 公共性(公が実施する意味があるか)              |
| C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要         |       | 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)             |
| D : 事務事業の廃止が相当                 |       | 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)            |
|                                |       | 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)       |
|                                |       | 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか) |

3 - 2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識		次年度に向けて改善する取組み		事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価	
	平成18年度	協働による多様なサービス提供は今後も求められていくことから、早急に地域住民が、主体的に地域の課題を解決していく仕組みづくりをする必要がある。	次年度設置予定の協働推進委員会を中心に、基本計画を取りまとめると同時に、協働推進の環境整備を行う。	次年度の本格的な策定業務のための事前準備を行うことができた。		
平成19年度	"	本年度策定の協働推進計画に基づき、各施策および協働事業の進行管理を協働推進委員会を中心に行っていく。	協働推進計画を策定し、総合計画終了年までの協働推進施策の方向性を具体的に示すことができた。			
平成20年度	"	本年度に引き続き、協働推進委員会にてアドバイスをいただくとともに、庁内の懇談会を開催し、協働事業の推進を行っていく。	計画スタート初年度として、進行管理のパターンを作ることができた。			
平成21年度	"	"	協働推進委員会及び懇談会の開催により、協働支援施策と実際の協働事業双方の進捗状況管理ができています。支援策も徐々に具体化されており、順調に計画が進んでいる。			
平成22年度						
平成23年度						
平成24年度						
平成25年度						
平成26年度						
平成27年度						

### 4 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	A	継続して事業を進めること。	
平成19年度	A	計画に基づき全庁の協働事業の進捗を管理することで、志縁地縁ともに本市の新しい公共への貢献が期待されるよう市民活動支援を図ること。(策定事業は完了とし平成20年度より計画推進事業として進行管理する。)	
平成20年度	A	継続して事業を進めること。	
平成21年度	A	継続して事業を進めること。	
平成22年度			
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			